

徳島県立図書館サービス向上目標（第5期）

～つなげる、つながる県立図書館サービス～

令和8年3月

徳島県立図書館では、平成18年度に第1期「徳島県立図書館サービス向上目標」を策定し、以後5年ごとに目標の改正を行い、サービス向上に取り組んでまいりました。

この度策定する第5期のサービス向上目標は、新型コロナウイルスの流行により変化した生活様式がある程度定着したことをふまえ、「新たな環境下の県立図書館サービス」として策定した第4期目標の根幹を引継ぐこととします。さらに、令和9年度に迎える開館110周年を念頭に、本県の中核図書館として、人と資料をつなぐだけでなく、市町村立図書館や他機関と連携したサービスの一層の充実をめざして数値目標を設定し、県民のニーズや課題に応えられるようなサービスを展開します。

県立図書館の役割・運営方針

徳島県の図書館ネットワークの中核として、すべての地域の県民のニーズや課題に生涯を通して応えていくとともに、県全体としての図書館サービスの向上を図ります。

目指す図書館の姿

1
人と資料を
つなぐ
図書館

2
探究する人を
サポートする
図書館

3
徳島を知って
未来を創る人の
図書館

4
読書を愉しみ
心を育む人の
図書館

Ⅰ 人と資料をつなぐ図書館

当館では、県内公共図書館等への協力貸出や図書館間の相互貸借の中心を担い、すべての県民が居住地に関わらず同じような図書館サービスを利用できるよう図っています。また、「電子書籍閲覧サービス」の拡充、「バーチャル図書館」の構築といった非来館型サービスを開始しているほか、県や市町村、大学図書館等と連携・協力することにより資料の紹介、利用を促進しています。今後も他の図書館等との協力やICTサービスの充実によりすべての地域の県民に図書館資料を提供していきます。

(1) すべての地域の県民への資料提供

すべての地域の県民への資料提供を行うため、昭和 25 年から移動図書館車「やまなみ号」を県下に巡回させ、市町村での図書館設置が進んできた昭和 63 年からは、各図書館からの予約資料を搬送しています。これからも、全県民が利用できるサービスとして、市町村立図書館と図書館未設置の教育委員会への協力貸出を充実させるとともに、「電子書籍閲覧サービス」の普及と充実を図ります。

(2) 「とくしまネットワーク図書館」の円滑な運用と維持

「とくしまネットワーク図書館」システムでは、利用者は県立図書館の本をインターネットで予約し、市町村立図書館を通して借りることができ、各図書館は他館から、資料を借り受けすることができます。今後も、「とくしまネットワーク図書館」システムを円滑に運用し維持することで、すべての利用者に必要な資料を提供できるように努めます。

(3) 県内市町村立図書館等への支援

県内公共図書館の発展と県民が居住地に関わらずサービスを受けられるようにするため、市町村立図書館等との連携を深め、図書館資料の搬送を維持します。また、県内図書館職員の資質・能力の向上を図るため、徳島県公共図書館協議会等において効果的な研修を実施し、よりよい図書館サービスの継続に向けた情報共有や検討を行います。

(4) 他機関・団体との連携協力

県や市町村、大学図書館および徳島県読書振興協議会等の読書ボランティア団体等と、共催行事や展示等を通じて連携・協力し、図書館および図書館資料の利用を促進します。また、図書館施設の利用受付や図書館見学等のサービスを通して図書館について周知していきます。

数値目標

5冊以上／年	県内公共図書館の県民一人当たり貸出冊数
5位以内／47都道府県	県民一人当たりの来館回数の全国順位
3万冊以上／年	ネットワーク図書館システムを利用した市町村立図書館等(学校図書館・議会図書室含む)への協力貸出・相互貸借冊数
30万件以上／年	HPアクセス数
25回以上／年	展示、講座等の共催・連携事業数

2 探究する人をサポートする図書館

当館のレファレンスでは、司書による調査・相談はもとより、各種データベースを備え、Webではパスファインダー（調べ案内）を公開しています。事典や図鑑類は電子書籍でも提供しており、今後も、県民がこれらを十分活用して、深い探究を行えるよう、レファレンス・ツールの充実に努め、サポートしていきます。

(1) レファレンス機能の強化

社会の複雑多様化に対応した的確なレファレンスサービスを行うため、各図書館職員の研修に努め、様々な分野で最新の動向を把握し、得た知識を共有して専門性やレファレンス技能を向上させるとともに、新しい分野も含め、多種多様な資料を充実させていきます。

(2) 使いやすいレファレンス・ツールの提供

調べたい事項の解決に、利用者自身で、より多くの参考になる本や文献に出会うことができるよう、当館での調査・相談事例のWeb公開を推進するとともに、関心の高いテーマのパスファインダーやテーマ一覧を充実させます。

(3) 他機関と連携したレファレンス

レファレンスサービスの質を高めるため、国立国会図書館の協業レファレンスをはじめ、県内外の図書館や専門機関と一層連携して、各館が備える機能を相互に活用します。とりわけ文化の森に集まる博物館等の各施設とは、調査研究やコレクション、レファレンス事例といった情報を共有しながら、より専門的な調査に対応できるよう努めます。

(4) 仕事や暮らしの課題解決を支援

ライフステージの各場面に対応して設定した「しごと」、「子育て」、「セカンドライフ」、「医療・健康」のコーナーで、暮らしに役立つ様々な資料や情報を時宜に応じて提供し、また各種データベースや電子書籍等オンラインコンテンツの充実により課題解決を支援します。

数値目標

60件以上／年	レファレンス事例 Web 公開件数
14,000 件以上／年	電子書籍閲覧件数
30冊以上／年	「これは使える!レファレンスブック案内」公開冊数
40件以上／年	行政支援件数

3 徳島を知って、未来を創る人の図書館

都道府県立図書館には、その地域の郷土資料センター的役割があり、当館では歴史的資料から現在の地域社会を映す資料まで満遍なく収集・保存しています。今後も、県民がこれらを十分活用して徳島への理解を深め、歴史・文化の継承や、これからのよりよい地域社会づくりに取り組めるよう、資料を充実させ、効果的に紹介して支援していきます。

(1) 郷土資料の収集・保存・活用・発信

徳島県や県出身者に関する資料をはじめ、行政資料、広報誌、地域情報誌等を網羅的に収集・保存します。また、電子行政資料の情報収集にも努めます。歴史的に貴重な資料はデジタル化し、アーカイブで公開するなど、郷土資料を適切に保存・活用することで県民の郷土への理解を高めるとともに、県外へも徳島の魅力を発信します。

(2) 郷土関係レファレンス・ツールの強化

司書のレファレンス技術の向上に努めます。また、所蔵する豊富な郷土資料を利用し、当館独自のデータベースを構築、郷土に関するパスファインダーの作成、レファレンス事例を蓄積することなどにより、利用者の郷土に関する調査を支援します。

(3) 徳島に関する調査研究の推進

地域に関する調査研究に対して、調査・相談や資料の提供を通じて活動を支援し、研究成果を当館で県民の利用に供するなどして、学術文化の振興に努めます。特に、70年以上の歴史がある「阿波学会」との共催で県内市町村の総合学術調査を実施し、多岐にわたる調査結果を『阿波学会紀要』としてまとめることにより、地域資源の再発見へとつなげていきます。

(4) 地域の課題解決を支援

地域の課題解決に取り組む人や団体、行政機関に対して、積極的に資料の提供やレファレンスサービスを行い、その活動や業務を支援します。また、こうした活動等に協調して、資料展示や県政情報の提供を充実させるなど、より多くの県民が関心を高め、課題解決に関わっていきやすくなるよう啓発に努めます。

数値目標

3,700 点以上／年	郷土資料収集点数
350人以上／年	郷土資料のマイクロフィルム・デジタル画像閲覧者数
400件以上／年	郷土レファレンス件数

4 読書を愉しみ心を育む人の図書館

当館は、幅広く新鮮な蔵書構成や、子どもの読書環境の充実などに留意して選書に努めてきました。これからも県民ひとりひとりの様々なニーズに応えられるよう多様なテーマの資料を収集するとともに、生涯を通じた「知る」「学ぶ」場としての環境を整えることにより、県民の豊かな読書活動を応援します。

(1) 多様な資料の収集と紹介

県民が読書そのものを愉しむとともに、それぞれが抱く興味関心に応じて生涯学習を深めていけるよう、豊富な内容の資料を、入門書から専門書まで幅広く、なおかつ図書・雑誌、視聴覚資料、電子書籍といった様々な形態で収集・提供します。また、多様なテーマでの資料展示や講演会等のイベントにより、新たな読書テーマの発見や知的好奇心の満足につながる提案を行い、読書の喜びを高めます。

(2) 子どもの本の網羅的な収集

当館は、昭和40年代から子どもの読書推進のため、乳幼児からヤングアダルト世代までそれぞれが楽しめる絵本・童話・知識の本、さらには児童文学の研究書まで、網羅的に収集した結果、子どもが楽しめるだけでなく、保護者や図書館・教育関係者等にも役立つ20万点に上る「子どもの本の資料センター」に成長しています。今後も引き続きこの役割を果たしていけるよう、年間児童書出版点数の8割以上の収集を目指していきます。

(3) 子どもの読書環境整備と学校図書館との連携協力

おはなし会などを通じて子どもたちが読書に親しむ環境をつくとともに、児童・生徒の図書館見学を積極的に受け入れ、図書館の魅力を伝えます。また、読みたい本との出会いを増やすパスファインダーやブックリストを作成・更新し、Webや資料展示で紹介します。さらに、子どもたちの自主的な読書活動を支援するため、電子書籍を含む調べ学習用図書の充実と、協力貸出・協力レファレンス(※)による学校図書館との連携に努めます。

※県立図書館が市町村立図書館等に対して行う貸出やレファレンスサービス

(4) 読書バリアフリー環境整備の推進

障がいの有無に関わらず県民が読書活動を行えるよう、大活字本や録音図書、電子書籍といった多様な形態の資料を収集し、来館が困難な障がい者への郵送貸出サービスなどを行います。また、日本語が母語でない人の読書活動を支援するため、様々な言語による資料の収集・提供に努めます。さらに、こうした資料やサービスを誰もが利用しやすいよう、わかりやすい館内表示や広報を行います。

数値目標	
85回以上／年	資料紹介展示回数
3,500点以上／年	児童資料の年間購入点数
1,000人以上／年	遠足など図書館見学受け入れ人数
450点以上／年	アクセシブルな資料(※)収集点数

※この数値目標に掲げるアクセシブルな資料とは、大活字本、デージー図書、マルチメディアデージー図書、朗読CD、LLブック(簡潔な文とイラストなどを使い読みやすく書かれた本)、点字付き絵本、読み上げ機能付き電子書籍、外国語図書を指す。